

月がきれい

「月がきれい」のED

ゆうぐ お まえ しろ つき のぼ
夕暮れ落ちる前に白い月が昇る
はるかぜやさ かげ つつ
春風優しく2つの影 ささやくように包んでいたよ

はじ だれ おも
初めてこんなに誰かを想った

いつもどうしていいのかわからなかった
きみ おも
君への想いはこぼれるほどあるのに
みぎて
つないだ右手もぎこちないキスも
せかい すべ
それだけがこの世界の全てだった
きょう きみ ことば だ
今日も君からもらった言葉を抱きしめている
わたし つきあか
私にとってそれはまるで月明り
ふたり み あ とき
二人で見上げたあの時みたいにきれい

あつ なつ ひ ざ ゆ ふうりん ね
暑い夏の日差し 揺れる風鈴の音
しんこきゅう み せなか おも
深呼吸して見つめた背中 思ったよりもすごく大きくて

どうしてこんなに切なくさせるの？

ひ ふたり ある か し や よこちょう
あの日二人で歩いた菓子屋横丁
きみ ほはば あ
君の歩幅に合わせてついていったね
ね くつ
いつもの寝ぐせとほどけた靴ひも
とき と
このまま時を止めてしまいたかった
なつまつ ふたり み あ はなび いま
夏祭りに二人で見上げた花火は今でも
わたし たからもの
私にとってかけがえない宝物
ふたり み つき
二人を見ていたあの月みたいにきれい

とお はな きみ
どんなに遠く 離れていても君と
いっしょ
ずっといつまでも一緒にいられますようにと
いの
祈った

よぞら きょう またた ほし み
夜空に今日も瞬く星を見つめて

こぼれる^{なみだ}涙を一人^{ひとり}こらえていたよ
言葉^{ことば}を持たない月^{つき}が私^{わたし}なら
君^{きみ}という星^{ほし}見つめつづける

いつもどうしていいのかわからなかった
君^{きみ}への想^{おも}いはこぼれるほどあるのに
つないだ^{みぎて}右手もぎこちないキスも
それだけがこの世界^{せかい}の全^{すべ}てだった
今日^{きょう}も君^{きみ}からもらった言葉^{ことば}を抱^だきしめている
私^{わたし}にとってそれはまるで月明^{つきあか}り
二人^{ふたり}で見上げたあ^みの時^{とき}みたいにかい